



和歌山から全国へ 誰もが手に取れるアイテムにするために

開業して6年を迎える今年、事業の認知度も商品の展開も広がってきましたが、前田さんはまだまだ多くの人に商品を届けたいと思っています。現在の販売方法は通信販売のみで、購入前に肌触りを確かめることはできません。ポップアップでの販売は何度か実績がありますが、福祉の服として見られてしまうため頻繁に実施することは難しいと前田さんは課題を語ります。商品の良さは実際に触れてこそ伝わるもので、そのこだわりや裏側のストーリーを直接伝える機会をより多く持つことが今の目標です。人との縁で fukufuku312 が誕生したように、これからも人の縁を大切に、服を通してみなさんに自尊心と希望を届けたいという展望があります。そのために、すべての人が生きづらさを感じることのない、ありのままの自分が輝く世の中になるように、学生に向けた発達障害の啓発活動も行っています。障害の有無に関わらず着用できる服を追求している fukufuku312 の服を手にとってもらうことで、福祉に限らずあらゆる人のためになる事業を展開し、当たり前ユニバーサルファッションが選択できるようにこれからもたくさんの縁をつないでいきます。



fukufuku312 / 前田 香さん

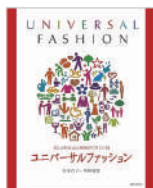
和歌山県和歌山市出身。大阪の専門学校を卒業後、アパレルのショップ店員を経験し、結婚。2010年に長男を出産。発達障害の長男の服に悩み、2019年 fukufuku312 を起業。現在、縫製メーカーのドッグ繊維株式会社 MAKI DIV. とコラボし、ユニバーサルデザインの服を企画販売。



18

2025.4.1 発行
TAKE FREE

編集メンバーおすすめの一冊



ユニバーサルファッション おしゃれは心と身体のビタミン剤

著者：見寺貞子、笹崎綾野 / 出版社：織研新聞社

ユニバーサルファッションの教科書のような一冊です。社会環境の変化によって移りかわってきたモノづくりの歴史の中で、ユニバーサルファッションが生まれた背景について書かれています。普段の服選びにも役立つ色を与える印象についてや、服のシルエットによってコンプレックスをカバーする方法等を学ぶことができます。

編集後記

今回の取材で初めてユニバーサルファッションという言葉を目にしましたが、もっと早く知っていたかった、と後悔しました。fukufuku312 の洋服は歩いてコンビニまで行くときや宅急便を受け取る時など、ちょっと人の目を気にするときの定番服になりそうです。2歳になりイヤイヤ期を迎えようとしている甥っ子にも、どんな着方でも正解になる服がおすすめでと前田さんに教えていただきました。fukufuku312 の洋服が生まれたきっかけでもある、洋服を着るといふ何気ない行動が、誰かにとっては難しいこともあるという事実を知って、日常に溢れる自分にとっての当たり前に今一度目を向けることで、誰かが救われることがあるかもしれないと学びました。私たちが洋服を選ぶときは価格や品質、手軽さやデザインなどいろんな選択肢から欲しいものを手に取ることができます。自由に着たい洋服を選ぶことができるからこそ、これから物を購入するときは価格や品質に加えて、前田さんのように熱い思いや高い志を持った方が作る商品を選びたいと思います。



「和 the」は和歌山市民図書館が発行する、まちの技・巧・匠を発信するフリーペーパーです。図書館がまちと接点をもち、まちが誇る文化や技術を発信しています。まだ知らない、ここ和歌山の魅力にぜひ触れてみてください。

和歌山市民図書館

WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

〒640-8202 和歌山県和歌山市屏風丁17番地
開館時間/9:00~21:00 TEL / 073-432-0010

和 the バックナンバーは、図書館 HP より
ご覧いただけます



ホームページ



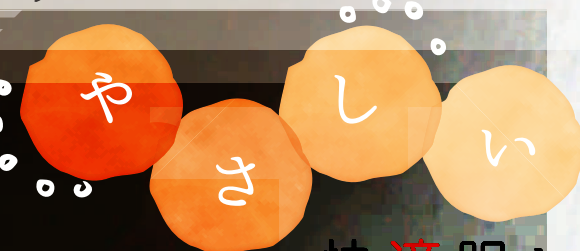
Instagram



facebook



みんなに



快適服を
和歌山から

取材協力 : fukufuku312 前田香さん / ドッグ繊維株式会社 MAKI DIV. 紀田丈治さん

和歌山市民図書館
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

和歌山が誇るワザ(技・巧・匠)を発信する和歌山市民図書館フリーペーパー・和 the. Vol.18は「みんなにやさしい快適服を和歌山から」をテーマに、和歌山市でユニバーサルファッション(※)の服を企画販売する「fukufuku312」前田香さん取材しました。

息子さんが市販の洋服の着がえが難しかったことをきっかけに、誰もが簡単に着脱できる「オールフロントTシャツ」を開発。前田さんが目指すのは、衣服に関して全ての人々がさまざまな選択ができ、服を通して生きやすい世の中になることです。そんな前田さんの洋服づくりの「ワザ」に迫ります。

※ユニバーサルファッション：年齢、体型、障害、性別、国籍などに関わらず誰もが豊かなファッションを楽しめる社会を創ることを目指す理念(特定非営利活動法人ユニバーサルファッション協会より抜粋)

たくさんの出会いが きっかけをくれた

前田さんの息子さんは感覚過敏(※)という症状をお持ちで、市販の服を着ることができませんでした。洋服は毎日着る必要があるもの。しかし、息子さんには着用できるものが少なく、前田さんは自分で洋服をつくろうと決意します。当時前田さんはミシンを触ったことがなく洋裁に関する知識もありませんでした。そんなときに助けてくれたのはママ友でした。糸の通し方からミシンの扱い方を丁寧に教えてくれたおかげで、息子さんも簡単に着用できる洋服をつくりはじめることができました。

※感覚過敏とは、聴覚・視覚・触覚・嗅覚・味覚等について、非常に敏感になっている状態であり、発達障害のある方に多いとされる特性である。(厚生労働省より)

熱い思いが共感を 呼び事業へ

服作りの様子を SNS に投稿すると反響が広がり、「これを事業化すれば良いのに!」というアドバイスが届きました。元々は必要に駆られて始めた服作りですが、アンケート調査をしてみると多くの障害児を持つ親が同じ悩みを抱えていることを知りました。前田さんは自分の子どものために始めたことが多くの人の助けになるかもしれないという思いで、起業することを決断します。まだ認知度の低かったユニバーサルファッションはたくさんのメディアに取り上げられ、多くのメーカーから事業連携の声がかかりました。しかし、前田さんの作る服は肌触りをよくするため「折り伏せ縫い」という縫い方で作られており、通常の3倍手間がかかります。これを知った多くのメーカーは取引から手を引いてしまいました。そんな中出会ったのが和歌山市の「ドッグ繊維株式会社 MAKI DIV.」でした。多くの人との出会いが現在の事業に繋がっています。

製造者が語る今後の展望

fukufuku312の服を製造・販売をしている、ドッグ繊維株式会社 MAKI DIV.(※)の紀田さんにもお話を伺いました。通常の服よりも3倍の工数がかかる服作りをやると思ったきっかけは、普通では考えつかないアイデアに心が動かされたからだそうです。購入された方からは「いつもすぐに服を脱いでしまう子供がこの服は嫌がらず、ずっと着てくれた」等の感想が届いています。fukufuku312の服を届けることで、年代を越えた多くの方の生きづらさが解消されていることを実感しているそうです。はじめは障害のある方に向けて開発された服ですが、今後は全国の小売店に卸売り事業を拡大させることで、ファッションとしてのすばらしさを伝えていきたいと考えています。

※ドッグ繊維株式会社 MAKI DIV. は和歌山市に本社を置く婦人服の製造販売を行う会社。fukufuku312の服を製造し、販売を行っている。

生活を豊かに



どりの 3つのこだわり

前後が逆でも、裏表が逆でも正解

fukufuku312の洋服はどんな着方をしても自然になるようにつくられています。オールフロントTシャツは前後が逆でも首が詰まることはなく、見た目にも違和感なく着用できます。またワンピースについているポケットは裏側にも左右にもポケットがついており、どの面で着ても正解になるようにつくられています。さらに驚きなのはズボンも裏返し、前後逆で着用できることです。食事の食べこぼし等で外出中に汚れても、裏返せば元通りになりきれいな見た目のまま過ごすことができます。



肌ざわりと機能性の調和

前田さんは肌触りにもこだわっています。fukufuku312の洋服は肌に触れる面を綿100%にすることで、どれも素肌の上に着たくなるほどさらさらと気持ちの良い肌触りを実現しました。しかし、綿だけでなく伸縮性に欠けたり、シワがでやすくなってしまいます。そこで化学繊維を混ぜることで良い肌触りと機能性を調和させることができました。伸びがよいので外出の際だけでなく、パジャマにもおすすめです。

リラックス感と シルエットの両立

機能性だけでなく、快適な着心地とシルエットにもこだわって前田さんは服を作っています。例えばズボンは後ろの面を2枚重ねたように作っていますが、腰回りのたるみが気にならないように調整を行い、ポケットは側面に付いています。これにより縦のラインが強調されるだけでなく、上着でポケットが隠れることがなくスムーズにものを出し入れすることができます。またズボンを下ろしたときに裾が落ちることのないように、足首を絞ることで床に触れて汚れないよう工夫しました。たくさんの機能を持ったfukufuku312の服は、いいとこどりの快適服として生活に寄り添ってくれます。

